

東日本大震災医療救護チーム（第2クール）活動報告

医療安全管理部 手塚則明

2011年4月18日から4月20日までの3日間、医療+リハビリ班として福島県会津若松市で活動してきました。メンバーは医師2名、理学療法士1名、看護師1名、事務1名の5人です。会津若松市には福島県大熊町の人たちが集団で避難しており主な対象でした。活動場所は2次避難所になっている宿泊施設（ホテル等）で、体育館などの1次避難所と比べれば住環境はかなり改善されているようでした。診療室を設営し診療とリハビリテーションを行いました。診療は高血圧、糖尿病などの慢性疾患の増悪が主であり、リハビリも肩こりや腰痛など慢性の訴えが多いようでした。高血圧は食餌療法が困難な事もあり、コントロールが悪くなっている人が非常に多く、糖尿病も低血糖への危惧から高めの血糖で経過している人が多いようでした。今後は検査を行いながら慢性疾患の通常のコントロールに戻す必要があります。それにあわせ医療支援の方法も急性期から慢性期へと、フェーズを意識した変更が必要になってきていると感じました。今後は診療所の設置、既存の医療機関への支援等、質を高めた効率的な支援が必要と思われます。



移動時の積み込みの様子



血圧測定、リハビリの様子



愛知県薬剤師会から派遣の薬剤師に
同行していただいた



対策本部の状況